



徒然草後解

一



徒然草諺解卷一

序

それ人の天然乃人の明ある鏡のこと
我の秋月と似るまると寒山子乃いへる
身よりさまりて見えしとされと刺と名
のつひよまらひて一生あつちとす
を形の後とすれを陶淵明のかゝる後と
よむへちりすや佛書五百函儒教十三
経道家及少の篇よふの一字と後よ
るに我國乃神居も亦あつちとす

その跡を踏て方と洛東の山脚は退て
つぎくのすもむよ志と華よまのせしむ一
部の要領と究よ人として名刺の結欲
をよもれ方んと安樂さるるしめん事を
わへるまたまのんかしてあそよさるるん
らんや惟時四海浪志るるして九勅人所
をゆくるまかろのちよ王宮國都よるま同巷
よいつるまよて貴賤男女よよるす書をよよむ
事をよつめり今志の三百年前の草子啖
啄同時乃志あつられて作者の功人よ

めて志るるは是則惺窩翁よるまのわし徳家
の誰かて其志を發ゆりよまはちるま僕もるる
一寛文丙午の年新註とよるしてせよあ
かき作りた僭踰の罪人ゆりてよる一今
年よ五月事ありて京師よのびりぬいと
はの日書とよるま関作りやよはは板行せ
とて文段抄鐵槌増注諺解の三書とよ
てよるせりりその述者よたらぬまの文段抄の
季吟増注の元隣諺解の南部草壽といへる
季吟の固よるま世よ吟人よまはちるる

元隣ハ其功つとありと獨諺解は穿鑿ちり
ず易也にりして尤初学の助とちるべし草書ハ
當世儒学と以て却るも唯皇統解ハ其結
餘ち多くと兼好のみより好世の楊子雲とを
いふを

寛文九己酉初秋の日尾陽清水春流筆を
洛陽の旅館より作り作るものなり

此徒然草ハ世人の知るごとく吉田の兼好法師の
作らばあり兼好ハ後宇多院後醍醐天皇御
宇多院より利然も後宇多院に仕て小西に侍り
て俗名をた兼好の依兼好と号す然も其後宇
多院崩御の後隠遁して洛陽東山吉田に閑
居り俗名を改めば兼好と呼是も其草に奥
に云へふこととて此乃号するぬ此名も奇矣
を好め尚をそしと依は言行お叶利今吉田
は兼好が旧跡あり

△兼好が生卒たりし記せる書ふ一或曰弘安
五年乙丑と觀應元年四月八日六十八歳と
て卒す高野山西光院に今もたわて位牌あり

と云ひ傳ふ墓ハ双窓有りあるも一室及びいなり
て此れ人よるのまれも今ハある人あり兼好が家
集よありこの思よ無常おまうけてこころの極と
うへさせて

△兼好ハ天台此學よまじ一且儒經を學び殊よ老庄
此を好みふ人なり神道ハむその家るまじく
其奥旨を知り尋るにも通して其此海
辨を運阿兼好として和歌此四天王と云まじ一者
なり末の集よ多載る手跡も世よまじ一
△扱此書と佛者が讀ばむ一釈あり云ひたし
儒者が讀むれば一書く五常此旨よあり奇學

者は詞花言葉と云りて奇の存よ云ひ課と云れ此然
味へる兼好の心ハいつまはれまらに人のおとら
るべきを引用し終よとのまらむと云ひありと
す意ハ三教一致と云らぬ畢竟の意ハ人間常位
の思ひと云りて無常變易の旨を認して一節
をあげる者なりされハ後去後來こそるこれあり
ゆへなりけむを以て全部以て人一赴道ハ
善惡二川の外あり善と勸惡と懲いゆめあり
ばいつまはれと云と一いつまはれ非とせんやまらる
一偏よ泥へる

△徒然 許氏ノ説文よ徒ハ空也と注と然ハ助終あり
又其名ハ伊勢物語よ徒然とあり是空の字ハ

ナル威勢アリテ時ニアヒノ、シリタル体ヨ
くヨカラスト思ハルナリ

増賀 元亨釈書曰、釈増賀、平安城人
諫議大夫橘恒平子也十歳、父母送、殿
山與、慈惠云、和州多武、峯、僧也、多
トキヒリニテヒトニ名利ヲハナシテ物ヲ
ニキ体ニラニヒケル人ナリ、爰ニ引辭、鴨、
長明カ發心集ニ載リ

ひよふの 永ノ字又一向モモク伊勢物
語ニ
三ヨシ野ノタムノカリモモク君ヲ多ク言ヒ鳴
是又一向

ひよふの 是ヨリ又法呼ノヲホメテ云リ
又ヒタスラ名利ヲ離シ身ヲ安ク樂ムル體
ハ却テアラフホシキト願フ辭也
人ハクモウモウ海 畢竟本心ノヲ云ハシ
爲ニ先ツ形ノ上ヨリ論シカ、ナリ
愛敬 人ヲ愛スルト敬トノニツ也愛スグ
六無礼ナリ敬スグレ親ハナリヨキホト
ニヒユルヲ云

論語卿黨君在踧踖如也与々如也 大全
双峯饒氏曰、踧踖、敬君至也、与々、愛君
至也、敬有餘而愛不足、踈也、愛有餘、
敬不足、慢、聖人、兩者具足、蓋、莫非
中和氣象

心むり 或ハ貴人、或ハウキ見ノ美藤ス
サシアタリハメテタケレ其人心ハ却テ
ヲトトナリ

天性 性ニ天性ト氣質ノ性ナリ、天性ハ渾然
タル善ニテ惡ニ染ルナシ、爰ニ云フ性ハ氣質
ノ性ナリ、是ハヨクモアヒクモ染ルモノナシ、其
アレク染リタル性ヲ向ノ人ニ見セハ口惜ム
心ハふらふ 人々具足ノ明德ナク、師ニ從ヒ
友ヲ求メテ、磋クニ磋カレヌト云フハ無ク
賢賢 論語学而、賢者易色トアリ、こ
ヲトリ用ヒテ色ヲ易ルト云フ、ウツ弁ハ

いづとハスくは増賀ひ
トモれいひんやう
名変るるく佛乃成
おりたごうんごも
ひよふ此世捨人は
中くあはゆるまき
とるらん人ハくあり
行跡ノ立居フニイコフ云
さぬのともまうらん
アリタキナリ
あはゆるらんけは
うらひひるまき

愛 敬 三皇集、君子、唯、言、多、者、ハ、ニ、ク、シ、
敬、三皇集、君子、唯、言、多、者、ハ、ニ、ク、シ、
論語里仁ニ曰、君子、欲、訥、於、言、而、敏、於、行、
とゆり、れ、あ、そ、あ、と
と性、ん、ん、を、は、
入ノ位ノ品々
生レ付
賢より賢にもうつさ
うらうらうん
ごぬもまき人
ぬわれハ、あからぬり

四十 爰ニ四十ト限リテ老々兼好ノ心ヲ
按スニ素門上古天真論曰四八ノ筋
骨隆盛肌肉滿壯五八ノ腎氣衰髮
隨齒極六八陽氣衰ト云
然人ハ四十以前ハ血氣旺盛ノ四十ヨリ
始テ老テヲト只行ノ速モ住テ又世ナレハ
老衰ノ姿ヲ不待壯年ノウキ死ニタキ
ト云ノ願ナリ

死にて死んそわやと云ふ
老衰ノ名形ヲモ不耻
見ヌカクニト五音通ヌ
四十以後ナリ
世男ハサレ出支リヲ如クナリ
或ハ幼少ノ孫子ヲモシテ成人ノ榮元未ニテ我カ余等ヲ見ルナキナドモ
人ノソ 論語及其老也血氣既衰戒之
在得トモ若キ時堪忍スル老テハ多クモ忍カシ
ひきと世とむさがるんものさく。物のあれ
とらんとの。命とあはれし。
命がぐれハ辱ナリ
あつとも四十よりぬ
姿と待えて何はせん。
命がぐれハ辱ナリ
あつとも四十よりぬ

も知るべかりゆらんあさ師た
此段ヲ見ル人ハ譬ヘ不幸ニ短命ナリ上テモ悔ム不可在尤モ又老人ノ世間ノ来メ
貧ル戒メ凡九レキ也
老テ血氣旺盛ニ衰ニ依テ物
衰レモ知ラズ貪欲甚クナリ
行ナシ

世の人の 此段先段ノタヒタカニ
アフレト云出セリ
世の人の心まどろひる色
欲ハ去るべ。人の心ハとろ
あふまのれ。白ひたな

どハ 暫時ノ間
衣裳又たま物と
腰ヨリ上ノ衣ト云下ヲ裳ト云
香ヲ云出ハ煙ヲ云テ重シ戒メシナリ

と知るなり。久米の仙人此物ありふ女れを
香ヲ云出ハ煙ヲ云テ重シ戒メシナリ
腰ヨリ上ノ衣ト云下ヲ裳ト云

河海凡字ヲヨメリサワグ後
威勢アルトキハ時ノ字ナリ
此志ろきを足して通を
うしひきんははと

和州上郡ノ人也入深山学佛法
服薜荔一旦騰空飛過故里
食松朮

會婦人以足踏院衣其膝甚白忽生瘡
心即時墜落云云

さしあらん人ハ口カ丸ト云ヨリ
承テ久米ノ仙人ハ安ノ体ヲ見テ通ヲ失
タレハ世ノ人ノ自心ヲヨクス比ス尤ナリト
タスケテ畢竟多ニ迷ヒヤスキト云緒ヲ云
出ノ次ノ段ニ深ク戒ム

女髪 詩君子借老篇鬢髮如雲不崩
文選西京賦 衛后則於鬢髮云云

如此アハモロコシモ女髪ヲ以テメテ名トス
人目ニタラシキ

同之ハベスれ人の程心之を
よこそ物に色

ふさ海ほし人の心はまどろ
まふいも秘を力とわ

あゝぬらむに心くえ思ふが
そ老まふしワのまじし

にちあーもくへるんと
此まきまに肥あつづき

うんハ外の色なす縁バ
さしあらん

女の髪はわせたらん
愛ハ女黒ク多クハ髪ヲ云

都テクシテテノ女
ま先日記ニ夜ハイモスホリ寝髪ヲシタト云

堪ノ字堪忍ナリカクモモツラカニシテナリ
右品ヤモツラノ色ヲモツラニシテナリ

六塵 眼耳鼻舌身意ヲ六根ト云
香味觸法ヲ六塵ト云六藝ハ此方ノ六根

觸ハ心ヲテ心ヲケカスニ依テ六藝ト云
右六根ノフハ心ニ依テ本心ヲケカスニ依テ
アハ志ノ入ルハ厭離スアハ心ニサレモ
其ノ中ニ好色ノ二ツ上下ヲ難シトナリ

そ老まふしワのまじし
あゝとらんあゝとらん

大衆 大威徳陀羅尼經十九乃至以女人髮
為作網羅香象能繫云此古事ヲ用

作笛 女履ニテ作ハ笛ニ必ス常ヨリ八塵
多クニ故今モ狩人ハ用ルヨソ

膚

脂

六藝の樂
六根の根
六塵の塵

そ老まふしワのまじし
あゝとらんあゝとらん

大衆しよつがれ女の
けつあゝとらん

けつあゝとらん
あゝとらん

あゝとらん
あゝとらん

家居れつぎく今云ツキヨモあつ海り次サモルキ家作きつてもかりのやう

とふ思へど奥を物なれ。まき入ののりやうに任かり

くりのやう人生七十古来稀トハ一世の多如し然ハ家ヲ飾ルニ無用クナレ又ツキヨモク作ヌスハサモルベキナリ

まは。きハ身ニシテ愛せらるナリあつもろ

いそめ巧珠ノ字マツ文選上林賦ギラヤト訓ニ住明珠光也トガキタテタラユあつ物ありてわ

ざとあつぬをのまきしあつ入ノ有体あつすのこ透垣ノスツクニあつ

たまりた常ニアルあつあつ古代ノ風流リテあつあつ

調度諸道具ノ也 小学外篇孔明拜あつあつ引其畧曰別無調度 句讀曰擲言區あつあつ

えり光段ノ字ヲス六違ヘリ爰縁ニあつあつ唐物あつあつ

あつあつ自之ハあつサトラスト云ノ裏ニ草木ノ子チユカク多クスカニテあつあつ

あつあつあつ向カテ打返 辞ニ春夜ノ暗ハアチニ梅花多クコノ見ニ子カヤハカクルあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

西行 俗名右兵衛尉 義清 法名山位法 改西行 鳥羽院ノ北面ナリカクナキ歌人ナリ

空寝殿 法殿ニテノ字彙 寝堂室也

大匠の寝殿ニ至ルニ 鶏のさきとて

あつあつサイギョウあつあつサイギョウあつあつサイギョウ

あつあつサイギョウあつあつサイギョウあつあつサイギョウ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

あつあつあつ融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ大使ニ成系ト カリノ多ク見ニあつあつ

けふと... 後乃小治世宮にたりし...

後小路官 紹運録性恵法親王 号後山院

小坂原のしひ... 西行の...

あふと... 是ハ人ノ語リ...

あふと... 痛ミ...

主ノ様体ノ知ラル...

神皇月ノ...

入事... 山ノ...

あふと... 此キ...

あふと... 生死...

世月ノ一モ思ニ出ラレトク

梅ノ香 梅ノ花アカス色木皇昔ニテヲナ

レ形見ノ春ノ夜ノ月

吹のきろげよ。花のなほ

灌佛 四月八日ニ行ハル是ヲ佛生會ト云

推古天皇ヨリ始ニ九叙尊天竺俱毘藍城

ニテ生レモフ時天龍水ヲソキ奉リニテ

祭ノ比 加茂ノ祭也四月中ノ酉ノ日行ハ

欽明天皇ヨリ始ル此目人ノ葵ノ節ヲ懸

人ノあしき 花ヲタヨリニ向來シ人モ今

花モナリテ若葉斗チハ花ノ若葉ニ見

ヨリ其人思ヒキトク詞是ヲ古今ノ躬恒

我宿ノ花ニカテラニル人ナリト後ヤ

トヨメハ人ノ躬恒ヲ指上云凡唯夕レナレ

見タルガ可ク

五月あやめく 拾芥云五月四月主殿

寮草内裏殿舎菖蒲 又弘仁式三五

月三月平且菖蒲艾花ト上南殿ノ前ヲク

多しの事し立くうりあひ

あうかひひひぞららるる

つあきさまあきあき

べしあひまそそごと

おのー灌佛の比祭れ比

あ葉れ梅涼ーあうあう

ゆ程了そ世のあられし人

のあしきしままうれとあ

お月せまうーいそがひさ

ふまのなれ。又月あやめ

トアリ

水鶏のうつくしきあどいびそくぬは。六月乃比あや

まきあよ。多うやのあうくそそ。蚊火あまうし

あをれなり。六月後又あ

六月後天武天皇ノ時ヨリ始ル思神ヲナタレ故和離後

後ヲスルナリ此六月後ヨリ三月ヨリメアリ其ヲ定家

納涼及ヒ絲竹ノ遊アリト十六六月ノ比ノ月ニモ

源ニア

七夕まつりこそあまうけい

七夕祭礼又乞巧奠上モ云ナリ天平勝室ノ比ヨリ始

物ヲスヘタラ井ニ水ヲ入大空ノ星ヲウツス由リ

又夏文類聚十六京師ノ旧俗初七晚貴家多ク結架樓

やうく。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

あまうけい。あまうけい。あまうけい。あまうけい

ヨウキン見又山路へ入る思ふ人ヲ恋成を

人乃は世れ「銀毛羈主」持身「付字」

そとよきとひひしとほとよきと覚くぬべれ

此段前段へカケテ見ルベシ妻子眷屬ナキ身ニ名残ノヲシキ者ナキハツナヒモ四季ノ物変スル毎ニ

空ノ名残ノヲヲヒレト六九ト同心ナリ此世捨人ヲ長明ヲ指上云説アリノ六交交記二期ノタレニ
ニハウタチノ枕ノ上ニキハリ生涯ノ望ハ折クノ美景ニノコレリ上云

月とあにそ「是ヨリ分ラズ願ヒラ云」あふ人の月づらなり

月とあにそ「け發端万ノウサモシラモ月見生慰ミテ感ラ促ストナリ」

ろき物ハあ〜とひ〜に又ひらり露了そ哀「是ヨリ兼好ノ平判ナリ」

るれとあ〜とひ〜をわ〜れおりにかれバ「必ス何ト限ルキハ云々其折ニハ何カ長ニキカラニヤト」

何クハ表あ〜さん「杜甫カ感時ヲ花ニ泪ラソクノ心ナリ」月花ハさ〜り「其申月花ハ殊ニ各別ナリ」風のを了そ

西行カ大形ノ物ヲ思フ人ニサレハ心ヲ付ル秋ノ初風
人ノ心ハ流くぬれ「岩」岩よ〜とま〜とく流「ホ」

時と心づい「水ハ万古ヨリ東ニ流テ一息ノ懈怠ナキ処實ニ万物ノ移リ替ル処」

水ニ壁言ラルニテ孔子ノ水ナルカ方ト玉「水ニ此心ナリ」

沈相日夜「此詩ハ三体詩戴叔倫カ作也」絶句第三第四ノ句ナリ叔倫唐ノ曹孟

ツカエテ古卿へ去ルヲゆズ故ニ沈湘ノ水ノ毎百東ニ流去ラウラヤニ我ハ如此古卿ヲ思

ヒ愁ルニ水ハ何ノ心モナク我愁ヲナグサメテ火クモ止ルヲ無シト水ニ向テ作ル処ナリ

〜とあ〜れなり〜愁「奈イ」慮「ホ」山「ホ」深「ホ」あり

そびて魚鳥と〜れ〜たの〜と〜人「ヒト」を

〜草まきよ〜いよ〜

〜ひ〜あり〜

嵇康 文選四十三嵇康与山濤逸文書云遊山次觀魚鳥心甚樂之「二」行作吏此吏便安能捨其所樂而從其所懼哉嵇康字叔夜竹林七賢一人

漁父辞吟沢畔

住玉心シ下ナリ

京極殿 拾芥云土御門、南京極西東

内院是ナリ

法成寺 五条川原ニナリ

御堂殿 関白道長公法名道相尊御堂

造立アテ故ニ世ニ御堂取ト云

海ハあられあま。清堂殿の作みぐせ強ひて。庄シ

園おひく「寄附せし我此ぞうの三清門の雨「抄

ろも世のうまそ。初末までとお海「志果ノ川ノ上ニ上モ水無クテ乾ク云とさ「御堂ノ上ニ思良マヤ

いあらん世ものぶらあせとん「木上ニとハ「西十九代花園院

大門。金堂「ガとちろゆて「モあり「三と正和の比南の

金堂 千載集云花サカリニ法成寺ニ結「再興スルニ

テ侍リケル金堂ノ前ナリ花ノチリ「昔ノ法成寺ノ秋ナ

付 阿弥陀ヲ安置セラレニ依名

丈六佛 一丈六尺ノ佛ヲ九品ノ淨土ガタリ

九体安置セラレ

行成 謙徳の孫義孝ノ子也道風佐理

兼行 延久比佳天和守南家ノ也能也

能益相兼人ナリ

行成トテカクシキニ筆ノ其一人

兼行 延久比佳天和守南家ノ也能也

能益相兼人ナリ

行成トテカクシキニ筆ノ其一人

のそいことさるる「昔ヲ昔花ナリシテ名モ今モ昔花ナリ云

法成寺「ホとん「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

と海り「昔主ノイモトモ志公ノ事ニ鑑ミテ云とそ志

未ノコヲ思惟スルハコトナラズトゾトス

風も吹かぬ人 古今集

花はよちリヌモホホ人必ゾ風モ吹アヘズ

小町

色ニテウツク物世中入心ノ花ゾアリキ

此二首ノ詞ニオシ生世者

○叔爰ノ心ハ花ハ風故ウツク地ナク人必風吹

子モ昨日モ睦シキ中モ今日ハ何ゾ障ラテ登

上ハニウツク人ノ心ハ云ヘリ花ニナル上時ハ

契リレ女ナドヲコメテ云

たつひとそあはれ人の目もよほりてくるも

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれはれはれはれ

ヨメル奇ナハ引合ヌ

あまのうらつづめはれゆがりのすまれのこし

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

しききききききききききききききききき

風もあまきあへばうはらふ

人の心は花よあはれり一年

月と思へばあはれとあはれ

との葉よとほしきとれぬもの

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

。我世の初のみありゆく

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

むしきききききききききききききききき

新古今和歌集 陳師道ヲ思慕リ記シ望ミ其本ヲ
思ヒ以テ其材視其様東思以テ其材トシテ

あゝん人の哀とあゝまこと

昔は嵐よむせびーねも。千とせとまうそで。新古今
昔は嵐よむせびーねも。千とせとまうそで。新古今

くさね。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
くさね。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

くさなりあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
くさなりあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

雪はねりうう寝る。朝人のうりあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
雪はねりうう寝る。朝人のうりあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

まて文とあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
まて文とあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

よは雪のうみあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
よは雪のうみあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

えん人のゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
えん人のゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

ゆんぬといひあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
ゆんぬといひあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

人もあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
人もあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

此段人ハ一言ニ依テ其詞ノヤサシキヲ不慮トシ意趣ヲ多クラス真ニチチ君子ハ一言以テ為知一
以為不智ヲヲ

九月廿日此は。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
九月廿日此は。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

ありくことゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
ありくことゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

せてうらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
せてうらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

ぬむひ。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
ぬむひ。あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

物あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
物あまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

さゆのゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
さゆのゆらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

つらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
つらあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

やそあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
やそあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

人もあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ
人もあまきつゝすうれて田となりぬ。其うさ塚ノ約形也ニ

常性ヲ女子ニシヨラントク

つひよよるべし。その人様あぐりせにたりとぎ
はるし
前段ハ一言ノヤサキニ依テ其ノ言ヲ不忘去此段ハ又其人ノ業ノ優テラ思
出ノ言行ノニツラ記フ人ヲ教ユ

今此内裏にけりおされて有ユラヒヨ穢の人よりんせしき

けりいづりも難カシありとて。すそに遷セシ幸カウれ日ちく

ありききに。玄ゼン禪ケン門モン院インはらんとして。閑ケン院インのりき

閑院 捨茶云二条ノ南。西園院ノ西一町云
ク。か。今云火灯口ノ類ノ火ハカリアリ
此梯形ヲ云ク定ハの。まろくして。ちちもあ

とぞありしと作られき。いづりもきり。是ハえりし

れいりそ。おろそちとちろくれば。あやまらうとて

るをまらうとあり
此段物ヲ見ラクハ必益ト云フ云

甲香カウはり見ミれやうるる。ちいさくて口のりどりそ

なり。むさうれ必カチ金カネ汲ヒといふおよありしと。おれ者シはる

きりしとちちとそいひ
此ハナタリト云物則甲香ナリト云フヲ頭スサレ今シ金汲ニ
ナタリト云モチト決佛此段モ前段ヲ承テ世間ノ誤ラウ知ラセ
ス者

おれりあき人の。おろくすさきちりすうとてん

えいしきつれぬ。いづりもきりしと。我ワたさ

思シひさしきそ。そ葉ハるた心ココロ地チするに。女メれ方カタより。出デ下カ

下カ者モノ社シャ也ナリ。然シテハサカシラハニ住ス者ノヲ云フ
やあふ。ひりりちと。いひあ

せりしそ。おろくすさきちりすうとてん

のきと。人の尸シ体タイをりしと。あやまらうとてん

長チカ断カ有リ。然シテハ本ホ上ウ三サン可カ云フ遺ヰ恨オン安アン之シ

甲香 本草曰甲香今医家稀用但合香
家所須又有大小用小者佳也可取香使不散

漢高祖自執手云每上疏宜自書勿使代
音信不三用ニナリテ

社下 句會男子二十以下又二説二十以上為下白鹿通
下者社也 然ハサカシラハニ住者ヲ云

扱ハラト云レヌヲ恨ザルト

向ヨリハ何ノ心ヲナラセヨ信ラフ急ニ云フ此方ヨリ世

かひして。いづりもきりしと

此ハナタリト云物則甲香ナリト云フヲ頭スサレ今シ金汲ニ

天子ノ御身ヲサヘ自ラ書モフカヤ其ノ餘ヲヤ其止入ヲ頼テ

書クハ人ノ見ルニホコラシキナリ何ソ人ノ

可達カガ也蓋思ラ不可取

向ヨリハ何ノ心ヲナラセヨ信ラフ急ニ云フ此方ヨリ世

扱ハラト云レヌヲ恨ザルト

長断有然本上三可云遺恨安之

朝又へてぞなれり人の心もあはれぬとき

「常と替テ訖ト關心ヲスル体ナリ」

ひきつてくるとふさゆよとあはれぬとき

「常しく心安ク云々親メハ今サラ如此關心ニ見ルイカト云々人モアルケルト」

ふ人もあはれぬとき

「論語曰女平仲善與人交父ノ而敬ス孔子モ云リ」

ふとそわはれぬとき

「是ヨリ常しくハ疎キ人ノ心安ク打テテタモ善ナリ」

とひつてくるとふさゆよとあはれぬとき

「此段友明ノ交リ末ニ敬ヲトフル依テ必ス絶ニ交ラズ礼儀ヲ以テ可交事ヲ云テ又礼と云却テ親ニナレハ」

「礼アル内テ和ル処ヲ以テ相交トノ教ナリ 礼記ニ礼勝則離樂勝則流ト云ト同」

名利よつられて

「此ハ段ハ入ノ名利ヲ好テ志ヲ忘タルヲ憤」

「リテ逐一云顯」

「兼好一世ノ樂ハ世ヲ道徒」

「トノ身ヲ静ニセリ是ヨリ自己ノ本意ヲ述」

「ハタリ」

「財ヲ好ム財ニ度富云」

「ハトモ身守ルニ貧ニキ也財アリテ心ヲ煩ラハス」

いふあはれ。一生とくさるし
そはるなれ財の心を
と六身とまのりたまはれ

キヨリハ貧ニクテ心ノ樂ニミナリ

害とひ 文選不懷宝以買宝不饒

「招思」

金とて 白氏文集五十一身後堆金

「杜北事ヲ不如生前一椀ノ酒」

金ヲツミテ北事ノ星とツカユルホト有トテ

「モナリ」

大なる車 范曾多詩肥馬衣輕裘揚

「過問里 鮮得市童隣 還為識者鄙」

「金ハ山ト云々 莊子天地篇藏金於山藏」

「五於淵云 文選東都賦捐金於山沉」

馬。金玉はるもあはれぬとき
とくさるなれ財の心を
と六身とまのりたまはれ

害とひ 煩とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

とくさるなれ財の心を

と六身とまのりたまはれ

うらわれぬ名 名と名約ニツノ事ノ内ニ
約ヲ求ルハスグテ思入人ト云テ次名ヲ求
テ又云ヘリ 白氏文集
龍門原上土埋骨不埋名

とあきとすれんともや公へまきとあつたに
上ルキ官位家生 又時ノ仕合ニテ
たごりともまじりあもるいりり 賢人聖人
又時ノ仕合ニテ
つこまき人もあまされ 賢人聖人
又時ノ仕合ニテ

たごりともまじりあもるいりり 賢人聖人
自ノ字字眼ナリ上ヨリ用シテ居辞位ヲ見カ多ナリ
つこまき人もあまされ 賢人聖人
不才ノ世ノ不出

つこまき人もあまされ 賢人聖人
利ヲ求止比々尤勝リ多居有ニト
つこまき人もあまされ 賢人聖人
官

つこまき人もあまされ 賢人聖人
世乃ノ同ヲ悦テ此ニツテ願ヘテ畢竟答ハ人
つこまき人もあまされ 賢人聖人
人の子をよろろふ 其ハ智アリ其ハ賢ナリト

モ非人モ共ニ世ヲ残ラズ是ヲ願モ皆徳ヲ
ナリ也

世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
又其人ヲ不見居侍同人ニシテ其ノ全又々速ニ可去
世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
人の子をよろろふ 其ハ智アリ其ハ賢ナリト

世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
此一段利ニトハスグテ
世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
又トリ上云官位ヲ望ムモ次ニラカナリト云ト受ニ

世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
又次ニ悉ナリト云フ次才ニツヨク戒メテ畢竟
世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
兼好方虚無自然ノ理ニ云課ス

世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
賢とねぶ人のためといふ智意ひいて
世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
才智尊能ヲヨク得ル字同ノ苦惱ヲシカ女子ニ

世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
差別アリ是ハ按排ヲムル名鑿智ナリ求ト
世よすれんともまじりあもるいりり 賢人聖人
才智尊能ヲヨク得ル字同ノ苦惱ヲシカ女子ニ

云カラ自然ノ良智ニ非

煩悩 智度論曰煩悩者能令心煩作惱云

はるしてまは 是ヨリ兼好已カ本意ヲ云アラ

ハスナリ

可不可 莊子齊物論曰可不可不可不可不可不可

可不可可又曰可乎不可乎不可乎

是善惡是非不可然不然曲直堅心一切世間

物論ヲ有フスル意ナリ

然ハ可善不可不善ナリ一條ハ有ク同フナリ

トハ莊子ノ詞ヲ假テ論ス

まニミル人 莊子逍遙遊曰至人無己神人無

功聖人無名

功徳アリシテ 外ニ多ク積ナリ其ノ功ナク

あく 功もあく 名もあく 功もあく 名もあく

了らん 是徳とく 功とく 名とく

より 賢愚の 境ノ字境介

のふもちて 名利とて 静ナリイ上ニナク名利ノスニ走ラ外ラツトル者皆如ク

長世なる。はるして

まは。まはびて。名はは

よの初にあは。いふ

と知といふべき。不可

か一條なり。いふる

又自向自答ナリ 眞人ナリ

名もあく 功もあく 名もあく 功もあく

了らん 是徳とく 功とく 名とく

より 賢愚の 境ノ字境介

のふもちて 名利とて 静ナリイ上ニナク名利ノスニ走ラ外ラツトル者皆如ク

上カク知ノ世ニ生テ益益ノヲ求ム非ナリ 時非ナリ 功もあく 名もあく 功もあく 名もあく

或人法然上人よ 念佛の時 睡よきされて 功とをこ

法然 源空也姓 滝間氏美作國福山人 父時國母 泰氏 長承二年四月七日生年 十五後 延曆寺功德院皇圓剃落受戒

目のみらるるん 観無量壽經曰 觀除 睡時 恒憶此言云

念佛の時 睡ノ催ス念佛未熟ニ依テ我心 ト念佛ト合ス上ニイカテ睡眠氣ガシガ目ノ 醒ルホトノ行ヲ觀念セヨト示サレ者也

迷ル者ハ十方億主禪者去此不遠心ナリ かりといれり。是もたうとひあ

も念佛すれ。は生るもいれり。是もまた

へ一定。不定と思へは不定

たり。又性生ハ一定とわも

兼好判ノ 念佛一途へ入らるれ

のさるると。やあ作らん

たり。又性生ハ一定とわも

へ一定。不定と思へは不定

たり。又性生ハ一定とわも

兼好判ノ 念佛一途へ入らるれ

のさるると。やあ作らん

たり。又性生ハ一定とわも

へ一定。不定と思へは不定

たり。又性生ハ一定とわも

兼好判ノ 念佛一途へ入らるれ

のさるると。やあ作らん

たり。又性生ハ一定とわも

